

介護・福祉製品

研究会

2013
(第1回)

10/28
(月)



高齢化がますます進行しています。「高齢者や障害者ができるだけ自立して暮らせるように、また介護者・介助者の負担が軽減されるように、介護状態にならない健全状態を長く保持できるように・・・」。

IDECでは昨年度から「介護・福祉現場の皆様や市内ものづくり企業などの優れた技術と英知」を結集し「横浜発の次世代介護・福祉製品等の創出」を目指して研究会をスタートさせました。

今回は、リハビリ現場と企業等との共同研究開発の事例紹介を初め、介護現場からのニーズや大学研究者のシーズなど“多面的な視点からなるプレゼンテーション”を計画しました。この機会に議論と相互理解を深め、双発的な製品・技術開発のきっかけにさせていただけることを強く期待しております。



日時

平成25年10月28日(月)

14:00～18:30

(17:20～ 交流会)

会場

(公財) 横浜企業経営支援財団
大会議室

参加費

市内企業 1,000円
市外企業 2,000円

交流会費含む

横浜市中区太田町2-23
横浜メディアビジネセンター7階

★横浜型地域貢献企業、IDEC施設入居企業は参加費無料



14:05～14:50

リハビリ関連製品開発の留意点

～成功と失敗を分けるポイント～

横浜市

総合リハビリテーションセンター 地域リハビリテーション部 担当部長 研究開発課課長 飯島 浩氏

14:50～15:20

新材料(マグネシウム合金)の加工技術革新

による新製品開発

現場のニーズから横浜市リハビリ
テーションセンターと連携して、
盲導犬ハーネスを開発しました。

株式会社マクルウ 取締役 安倍 信貴氏

15:30～16:05

特別養護老人ホーム現場の現状とニーズ

社会福祉法人横浜市福祉サービス協会 横浜市新橋ホーム 副所長 石原 桂子氏

16:05～17:15

東工大における医療福祉ロボット研究開発の取組み

～東工大シーズの紹介～

東京工業大学工学部 教授 武田 行生氏

東工大では、社会ニーズに基づき、学内教員と産業界とで柔軟にプロジェクトチームを編成して全く新しい機械システムを創造的に開発する、スーパーメカノシステム(SMS)創造開発センターを組織しています。本講演では、SMSセンターの活動とともに、センターでの研究開発の中核的なテーマ分野に位置づけている福祉ロボットや医療ロボットなどについての研究開発内容について紹介し、今後の課題や企業等に期待する事項などについても言及します。

意見交換&懇親会

17:20～18:30



お問い合わせ先

(公財) 横浜企業経営支援財団 経営支援部 技術支援課 TEL: 045-225-3733

FAX: 045-225-3738 <http://www.idec.or.jp> ◆イベントのお知らせをご覧ください。

IDEC介護福祉製品研究会 2013(第1回)



氏名	所属・役職名
企業名	事業内容
所在地〒	
TEL	FAX
E-mail	
<input type="checkbox"/> 横浜型地域貢献企業、IDEC施設入居企業(チェックをつけてください) ※横浜型地域貢献企業、IDEC施設入居企業は参加費無料	

※ご記入いただいた個人情報は、内部資料(参加者リスト)を作成する目的、財団からの各種案内を送付する目的のみに使用し、他の目的には一切使用しません